

9月新城市議会傍聴記

①

地方政治クリエイト 伊藤 秀昭

今年11月10日に市長選と市議選が行われる新城市にとって、今議会は4年任期の最後の議会である。それだけに再選を目指す議員も、今期で引退される議員も悔いなく活発な議論を期待したい。

■中小企業振興

長田共永氏は厳しい経済環境の中で、懸命に生き残り策を模索している中小企

業振興策を、お買い物券「いいじゃん」の取扱店拡大と商工会街路灯事業会計から聞いた。

近づく決戦を前に悔いなく議論を

アベノミクスの経済指標が改善され、その上に東京オリンピックが決定し、景気回復を象徴しているような動きの中で、地方経済の担い手である中小企業振興は地方行政の喫緊の課題。そのための

100回目の一般

質問に登壇した丸山隆弘氏は地震・災害等緊急時の対応について聞いた。特に地域レジリエンス(災害時の組織の回復力)について取り上げ、災害にどの程度

携、民間事業者との連携、自主防災会との連携などよりなる追求が必要であると主張した。

■庁舎建設事業

8月から新庁舎の基本設計案が閲覧公

想から、基本計画、そして基本設計と長い時間をかけて議論し、手続きが踏まれてきたはず。

多様な市民の声を代弁するために議員が存在し、市民意見

懸念な姿を紹介して過度な負担になっていないかと問題視した。

庁舎建設に関して地権者の理解は得られたか、知事の事業認定は得られたか、地元住民の付け替え道路への反対が続いているがどうかなどの問題点をあげた。

■ひとり親家庭 下江洋行氏はひとり親家庭の福祉について、相談体制、就業支援、支援体制などの面から質問し、未婚のひとり親家庭への支援策にも言及した。



「この6年間に論点が出され整理されてきた問題点ばかりであり、きちんと手続きを踏んで、市民の理解が得られているものとして進めている」と市長は一蹴した。

4日に最高裁は婚外子が相続できる遺産に差を設けている民法の規定を下した直後でもあり、未婚の母の寡婦控除など今後の地方の現場での具体的な支援策に期待したい。

新城市議会の傍聴に来て思うことだが、テーマの選定にあたって一般質問と委員

もちこたえるのか、どれだけ早く回復するのかという取り組みが重要でないかと問題提起した。

表されている中で、「現計画規模が適正と考えているのか」と質問したのは加藤

の集約の最高の場が議会でないのか。

「今後、市民の声がどのように出てきてどのようにならないのか」と追ったが、基本構

質問の中で、現場対応している職員の

防炎対策には限界があり、災害は必ず起ることを前提として、市町村間の連

「今後、市民の声がどのように出てきてどのようにならないのか」と追ったが、基本構

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の

質問の中で、現場対応している職員の